

○ カリキュラムの内容

本学大学院薬学研究科博士課程では、医療現場等において指導的な役割を担う人材の養成を図るため「カリキュラムポリシー」に基づき、以下の教育課程を編成している。

①教育研究のコアとなる講義及び演習科目については、医療薬学基盤科目（14科目）と医療薬学応用科目（10科目）とに区分し、医療薬学基盤科目から10単位以上、医療薬学応用科目から6単位以上の履修を条件として、研究テーマに応じて専門分野及び関連分野について幅広く薬学や医療について学べるよう科目を配置している。

②上記の講義・演習科目では、医薬品及び医療にかかわる最先端の知識の修得及び研究等について、基礎から応用まで幅広く学ぶとともに、狭義の専門領域にとどまらず幅広い分野の知識の修得を図ることができるよう配慮している。

③医療薬学応用科目には、医療機関において専門医・専門薬剤師等の指導により臨床研究を展開する「臨床薬学総合実習（4単位）」を配置して、高い専門性と臨床能力を有する専門薬剤師等の養成を目指す。

④上記の「臨床薬学総合実習」では、専門薬剤師を目指す学生を主な対象として、これまでの大学院教育（「薬学臨地実習」）で培ってきた医療機関との提携・協力関係と臨床現場における実習・研究の実績を活かし、現場の専門医あるいは専門薬剤師の指導のもと、共同で臨床研究を展開する。

なお、実習を行う医療機関については、研究テーマに基づき当該実習担当教員及び指導教員との協議により選定し、実施する時期並びに期間については、研究計画及び研究の進行状況を勘案のうえ、実施予定の医療機関との調整により決定する。

⑤研究から論文作成までの基礎的な研究能力を養うため、基盤研究科目として、「実験計画演習（2単位）」、「情報処理演習（2単位）」の2科目を必修とし、「基盤研究総合実習（2単位）」を選択科目として配置している。

⑥「実験計画演習」では、課題研究に関連する様々な実験手法や機器分析法を学ぶとともに、実験計画の立案方法などを修得する。

⑦「情報処理演習」では、課題研究に関する文献調査を通じて高度な情報収集能力、情報解析能力、英語力並びにプレゼンテーション能力などを修得する。

⑧「基盤研究総合実習」では、所属する研究分野以外の異なる2つの研究分野の教員により、研究手法に関する総合的な指導を受け、広い研究視野を身につけるとともに、課題研究へ応用する能力を修得する。

⑨課題研究では、指導教員の指導に基づき、専門分野にかかわる特定の研究課題を設定して、各講義・演習科目で修得した知識・技能を活かして研究を行い、その成果を博士論文としてまとめる。

⑩専門薬剤師を目指す学生を対象に「専門薬剤師科目」として「専門薬剤師特別講義（2単位）」を開講し、専門薬剤師に求められる実践的な専門知識について、臨床における諸課題や最新の知見などを中心に総合的に学ぶとともに、チーム医療における専門薬剤師の役割と意義についても理解を深める。

《点検・評価》

本研究科のカリキュラムポリシーに基づき、薬学を基盤にしなが、基礎的知識から応用的知識まで幅広く学ぶことにより、広範な知識の獲得を図るとともに、総合的な幅広い視野に立脚した臨床能力・研究能力の修得と深化を具現化するためのカリキュラムとなっており、本研究科の理念並びにミッションを実現するものとなっている。

教育課程の各授業科目は、特論の諸科目については、医薬品及び医療にかかわる最先端の研究の成果等をふまえ、高度な実践的能力を修得できるよう配慮しており、講義（特論）・演習から実習、さらに課題研究へと展開していく過程で、博士課程教育にふさわしい高度な臨床能力・研究能力の修得を図ることができるよう編成されている。

- ・別途シラバス及び教育課程等の概要(別紙様式第2号)を添付すること
- ・履修モデルを添付すること